

皆様いかがお過ごしでしょうか、神奈川ダイハツの松川です。

季節の移り変わりは早いもので、気が付けば2016年も半分が過ぎてしまいました。今年の夏は猛暑になるとのことですので、熱中症対策を万全に乗り切っていただきたいと思います。

さて、今回は先週6/14(火)に開催いたしました「第35回 サービス技術コンクール 関東地区大会」の模様をお届けいたします。

「第35回 ダイハツサービス技術コンクール 関東地区大会」は、全国6,000人のダイハツのサービススタッフの頂点を目指して競い合う「第40回 ダイハツサービス技術コンクール」の関東地区大会として開催いたしました。全国大会は2年に一度開かれ、地区大会を勝ち抜いた12社、推薦枠の2社、計14社が集結し頂点が決まります。

この関東地区大会は、茨城ダイハツ、栃木ダイハツ、群馬ダイハツ、埼玉ダイハツ、ダイハツ千葉、ダイハツ東京、神奈川ダイハツの関東7社で競い合いました。今年は全国大会の開催年のため、選手は非常に気合いが入っております。



今年の開催場所は「弊社 平塚店」でした。いつものショールームの雰囲気とは全く違い、各社の応援の方々や運営スタッフ、関係者合わせて400人ほど集まり、ショールームに入りきれないほど非常にたくさんの方で埋め尽くされておりました。

選手はこの日のために、優勝、全国大会出場を目指して、毎日の仕事に加えて何か月も厳しい練習を積んで参りました。開会式では皆大変緊張した面持ちでしたが、それ以上に気迫を感じました。



この大会は、ダイハツ検定の級位によってA選手とB選手に分かれており、それぞれ学科試験と実技試験がございます。学科試験は事前に実施しており、この日は実技試験を行いました。

A選手は「故障診断競技」「お客さま応対競技」、B選手は「メンテナンス競技」をそれぞれ行い、両選手の合計得点が各社の総合得点として評価されます。

実技会場を行ったサービス工場内は応援の方々で溢れかえっており、一生懸命競技に取り組んでいる選手に熱い視線が集まっておりました。前日の雨のあとで湿気と気温が高くなったこの日、熱中症が心配でしたが、特にそういった報告もなく、競技は順調に進んで参りました。



競技終了後、選手は汗だくになりながらも非常に清々しい表情で、応援の皆さまの温かい拍手に包まれて実技会場を後にしました。採点時間・休憩を設けた後 表彰式へと移りましたが、開会式と表彰式の選手の表情を見比べると、やはり競技が終わるまでは非常に緊張していたことが分かりました。

関東大会は終了しましたが、これから上位の選手は全国大会へ向けてさらに特訓を積むことになります。参加選手に限らず、神奈川ダイハツの全サービススタッフも、日頃の技術を磨き励んで参りたいと思います。

また、今回の運営に際しご尽力いただきました方々、誠にありがとうございました。

何よりも選手の皆さま、運営スタッフの皆さま、関係者の皆さま、応援に駆けつけてくださった皆さま、長い時間、大変お疲れ様でした。

これからも、オールダイハツ一丸となって頑張っておりますので、今後とも応援のほどよろしくお願いたします。